9.1　環境報告書の評価

宇部市総合政策部
連携共創推進課
課長　橋本 佳子

■ 第三者有識者のコメント

宇部市は山口大学と共に、古くは、公害克服の歴史を背景に地域の発展に向けて歩んでまいりました。特に2004年の包括的連携・協力に関する協定締結以降、地域産業、環境、まちづくり、人材育成など、「共創による持続可能なまちづくり」を基本に様々な分野において取組を進めているところであり、まずはこれまでのご貢献に対し謝意と敬意を表する次第です。このような背景のもと、この度、本報告書を「SDGｓ未来都市うべ」としての視点をもって拝読させていただきました。

1. 事業活動における環境負荷の低減に関して

外部要因により温室効果ガス排出量の微増はあるものの、エネルギー使用量については、前年度と比較し、単年度目標を超える原単位3.9%の低減や、光熱水費約3.5億円も削減された実績は、徹底した学内管理の成果であると評価いたします。

また、全学のエネルギー消費・費用の６割以上を占める小串キャンパスのＣ棟改修工事に個別空調方式や高効率空調機が導入されましたことは、医療機能の安定と環境負荷低減を両立させる極めて有効な施策です。

この環境負荷の低減については、近年の異常気象下において、今後、いずれの事業所においても、エネルギー効率化と職場環境改善の両立が課題となることも見込まれることから、大学独自の先駆的な対策にも注目しています。

2. 地域連携とSDGs達成に向けた取組

産学公金連携による山口大学グリーン社会推進研究会の活動は、山口県・宇部市の産業特性がもたらす課題の解決にとって、技術面から重要です。

また、ロボット研究部をはじめとする学生の自主活動は、地域の子どもたちにイノベーションの刺激を与え、これらは、SDGｓ目標4「質の高い教育」や目標9「産業と技術革新」の解決に通じて、地域との協調・連携を促進するものです。このような活動に自ら参加し、積極的に取り組まれる学生の存在は、自治体として非常に心強い限りです。

「日本一学生が活躍するまちづくり」を目指す宇部市として、こうした大学の知と若い力が「持続可能なまちづくり」を牽引していくことを今後も期待しております。

3. 総括

今回の報告書においては、一部には未達成の目標も見られますが、全体を通して目前の課題と向き合い、具体的な行動によって着実に改善され、また、研究成果の社会還元と地域に根差した環境教育の調和と、新たな価値の創出に繋げられている点が確認できました。

宇部市としましては、山口大学とのパートナーシップをより一層深め、本市が取り組む企業登録制度や補助金制度なども推進しながら、環境分野に限らず、今後とも「共創」を基本に山口大学と共に地域課題の解決に取り組みます。

※宇部市公式ウェブサイト：宇部市ＳＤＧｓ「持続可能なまちづくりに向けて」
https://www.city.ube.yamaguchi.jp/shisei/keikaku/sdgs/index.html

4．山口大学の環境目標と実施状況

環境マネジメント対策推進会議で策定された「環境目標」の実施状況を次のとおり報告します。

なお、「環境目標」においては、国連の掲げるSDGs（持続可能な開発目標）及び、政府の2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指した取り組みに賛同し、事業所全体・組織・構成員（教職員・学生等）一人ひとりが自身の課題と解決方法であることを認識して全員参加で取り組んでいます。

表4-1　環境目標と実施状況

環境目標	分類【SDGs指標】	中期目標	単年度目標	実施状況	関連ページ
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出抑制【SDG 7.9.11.12.13】	2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減を目指すこととして、第４期中期計画（2022～2027年度の期間）においては2013年度比で38%削減を目指す	エネルギー消費量を対前年度比及び5年間平均原単位変化１%以上の低減に努める	省エネ改修、節電実行計画の推進、エネルギー使用量管理の徹底、電力調達対応などを実施しました。 中期目標 温室効果ガス排出量2013年度比34.4%減 単年度目標 エネルギー消費量原単位 5年間平均で2.2%減　　対前年度比3.9%減	P8．9
	水資源の有効活用【SDG 6.12】	水使用量の削減に努める	節水の推進	節水機器更新、水量調整、使用量管理の徹底を実施しました。 使用量前年度比9.5%減	P8．12 P13．15
	グリーン契約【SDG 9.12】	グリーン契約の推進に努める	グリーン調達比率１００% 環境配慮契約の普及	グリーン調達比率１００%を達成しました。 環境配慮契約の推進とエシカル消費の普及を実施しました。	P8～11 P13．14 P16
	森林保護【SDG 12.13.15】	紙使用の減量化に努める	紙使用量の削減とリサイクルの推進	両面印刷･集約等の機能活用、電子会議･事務手続きの簡素化･電子化、古紙リサイクル、用紙･封筒の再利用の取り組みを実施しました。 紙類購入量前年度比10.2%減 印刷複合機出力紙枚数前年度比13.2%減	P8．13 P14
	廃棄物の抑制【SDG 3.6.11.12.13.14.15】	廃棄物の減量化に努める	廃棄物の削減とリサイクルの推進	ゴミの分別と5Rの徹底、排出量把握と減量化、食品ロス削減･フードバンク支援の普及、化学物質使用量等の削減と適切な管理、落葉等の堆肥リサイクルの取り組みを実施しました。 一般廃棄物量前年度比2.5%減 産業廃棄物量他前年度比11.3%減 廃液処分量前年度比12.5%増	P6．8 P14．16
環境貢献技術の創出	環境に関する研究【SDG 1～17】	地球環境にやさしい研究開発の推進	省資源・省エネルギー、地球環境保全等に繋がる研究開発の推進	地球温暖化に対する緩和策、気候変動による自然災害への適応性、環境保全、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用などの研究の促進を行いました。	P17～25
環境モラルの醸成	環境教育（環境基礎・環境教育カリキュラムの充実）【SDG 4.13】	学生への環境教育の徹底	実験排水の適正な処理の徹底 教育・研究等による環境マインドの向上	環境対策に関する教育、環境保全及び安全教育、実験排水や廃液処理について、Web講習会等を活用して、教育の普及推進に取り組みました。	P6．15 P16 P25～28 P30～32
		職員への環境教育の徹底	職員への省エネ意識の啓発	環境対策に関する情報の提供（ホームページ）、省エネ啓発通知（メール）、ポスター掲載、巡視、ワークライフバランスの確保、軽装の通年対応、エコドライブなどの取り組みを実施しました。	P5．11 P13．15 P27．28 P29
	環境美化【SDG 6.12.13.14.15】	環境美化運動の促進	緑化の推進及び一斉清掃の実施	キャンパスクリーン（年2回）、構内除草作業・植木の剪定･放置自転車の整理などの取り組みを実施しました。	P30～32
地域との協調・コミュニケーション	地域との触れ合い【SDG 4.10.13.17】	関係者に対する環境情報の提供	各種媒体を通じた環境情報の発信	社会連携講座･公開講座やセミナーの開催、環境配慮活動の公報活動、環境情報の発信などの取り組みを実施しました。	P29～32
	職員・学生の自主活動による社会・環境貢献【SDG 13.14.15】	地域貢献活動の推進	職員・学生の自主活動による環境貢献	地域クリーン作戦（年2回）、環境に関する国民運動やCO2削減県民運動の取り組みに参加しました。	P29．30
法規制の遵守	化学物質の管理 水質汚濁防止【SDG 3.6.12.13.14.15】	グリーンケミストリーの推進	化学薬品等の使用量の削減	実験･業務計画の見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用などの取り組みを実施しました。 廃液処分量前年度比12.5%増	P6．14 P28
		化学物質の適正管理の徹底	化学物質取扱者への教育・訓練の徹底	環境保全と安全教育、廃液処理教育などの取り組みを実施しました。	P6．14 P28
		下水排除基準、排水基準の遵守	化学物質及び排水・廃液の適正管理	実験･研究室等の巡視、各種排水や廃液の適正管理の徹底をしました。	P6．14 P16．28
	大気汚染防止【SDG 3.6.12.13.14.15】	フロン漏洩防止、大気排出基準の遵守	フロン排出抑制法に関する第一種特定製品（業務用空調機器、業務用冷凍冷蔵庫等）の適正管理 自家発電装置等の大気排出基準による適正管理	フロン排出量は、適正な維持管理を推進し、報告対象値未満となりました。 ばい煙排出量は、適正な運転及び維持管理を行い、排出基準値以下となりました。	P5
	産業廃棄物の処理【SDG 3.6.11.12.13.14.15】	産業廃棄物の適正な管理と処理	産業廃棄物の適正な管理と処理	廃棄物マニュフェストの適正な管理と処理を実施しました。	P5．14． P16
環境マネジメントシステムの整備・充実	環境配慮の取り組みのための管理体制【SDG 11.13.17】	管理体制による適正な活動	管理体制による適正な活動	環境マネジメント体制の円滑な運用、環境目標と行動計画の履行、組織内への数値目標･実績計画等の周知、エネルギー使用量の点検などを実施しました。 環境マネジメント対策推進会議：年4回開催 環境マネジメント対策部会：年１回開催	P2～4